

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月5日

### 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670500158号		
法人名	医療法人 誠心会		
事業所名	グループホームあつたかハウス 串木野		
所在地	鹿児島県 いちき串木野市 大原町 80番地 5 (電話) 0996-33-6630		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年4月3日	評価確定日	平成21年4月11日

【情報提供票より】 (平成 21年 3月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤14人, 非常勤 0人, 常勤換算14人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄鋼サイディング 造り	
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(日額)	370円
敷金	有 ( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有 ( 30,000円) 預かり金として計上	有りの場合 償却の有無	有 / ○無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

### (4) 利用者の概要 ( 3 月 1 日現在 )

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	7名
要介護5	4名	要支援2	0名
年齢	平均 83 歳	最低 71 歳	最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ゆのもと記念病院・ゆのもと記念病院歯科
---------	---------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から少し入った便利な住宅街に立地している。母体法人は医療・福祉の両面で体制が充実しており、法人内の協力や連携が図られ入居者・家族は安心して暮らしている。ホームは二階にあり明るく、ストレッチャーが利用できる広いエレベーターが設置され、散歩や買い物など外出も気軽にできる。法人の理念を職員は念頭に、ベテランや若い職員など笑顔でチームワークよく支援している。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価を受けて改善計画シートを作成し、計画的に改善に取り組んでいる。職員を育てる取り組みについては、新人研修、主任研修、資格取得のための勉強会など実施し、改善している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価のねらいや活用方法について職員に説明し、職員会議で話し合い、職員の意見やアイデアを、サービスの質向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回定期的に開催し、利用者の様子やホームの行事等報告している。地域行事の情報収集にもなり、会議で得た情報や意見を活かし地域住民との協力体制や交流につなげている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年1回の家族会や無記名によるアンケートを年2回実施し、家族の意見や苦情・不安など表せる機会を設けている。面会時は何でも言える雰囲気づくりに努め、意見や苦情を運営に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、敬老会や十五夜の綱引き、子供みこし等参加している。中学生の体験学習の受け入れや毎月の誕生会やホーム主催の夏祭り等に地域住民を招待する等、積極的に交流を図っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人のグループホームの理念を、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして掲げている。地域密着型サービスとしての役割を目指した内容の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見やすいところに掲示し、毎日の申し送りや職員会議で唱和し、理念を共有している。理念を念頭に毎日の支援を実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、敬老会や十五夜綱引き、子供神輿等に参加したり、中学生の体験学習等の受け入れやホーム主催の夏祭りへ招待し地域の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について全職員にそれぞれ自己評価をしてもらい、職員会議で話し合い検討した。前回の外部評価の改善点の改善計画シートを作成し、評価を活かし改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、利用者の様子やホームの行事等について報告している。会議での意見を活かし、災害時の地域住民の連絡網を作成するなどサービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的にホーム便りを持参し、入居者やホームの現状等報告し、ホームや利用者の課題について相談して、考え方やサービスの質の向上に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に入居者の様子を話したり、担当者が作成した入居者個々の報告書と、毎月発行しているホーム便りに写真や行事予定等掲載して送付している。金銭出納帳は面会時に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や年2回の無記名でのアンケートを実施し、家族の要望や意見等把握するよう努め、意見や要望等はミーティングで話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による入居者のダメージを防ぐために、引継ぎの時間を多く持ち、利用者の理解やケアの方法などを配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による新人研修、主任研修、資格取得に向けた勉強会など段階に応じた研修を実施している。外部研修や法人の勉強会など積極的に参加を勧め、研修報告等も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会に加入し研修に参加したり、法人内のグループホームの管理者や計画作成担当者と定期的に勉強会を実施し、お互いにサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の家族の相談を受け、見学を勧め、病院や介護老人保健施設の利用者に面会へ行くなど、馴染みの関係をつくり、本人が安心してサービスを利用できるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、一緒に過ごす中で昔の話や料理や保存食の作り方など教えてもらい、共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や表情から入居者の思いや意向を汲み取り、困難な人も表情や様子、家族からの情報など考慮して把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者・家族の希望や意向を面会時や電話等で事前に聞き取り、職員全員でモニタリングとカンファレンスを実施し、主治医や関係者の意見を反映した、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日介護計画の実施状況をチェックし、支援経過の記録等をもとに期間に応じた見直しをしている。状態変化時は本人や家族・主治医と相談し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、24時間の健康管理機能のほか、病院受診、通院介助、自宅訪問、墓参りなど入居者や家族と相談し柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望する主治医の受診や訪問診療など適切な医療が受けられるよう支援している。透析を受けている入居者も、専門病院に通院でき、安心して暮らしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りについての指針を示し、本人や家族の希望を確認している。終末期をホームでの希望は現在はないが、必要時には家族や主治医等関係者で話しあい、全員で方針を共有し、対応するようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時に誓約書を取り交わし、言葉かけや対応などプライバシーについて法人やホームで勉強会を実施して、プライバシーの確保の徹底に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮しながら、起床や食事、入浴時間など入居者のペースを大切に、個々の希望に添った支援を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で作った野菜や近所の人からもらった野菜を利用して調理をしている。下ごしらえや片付けなどできる方には手伝ってもらい、入居者が食事を楽しめるようさりげなく介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴できる。同性介助や重度化している入居者も二人介助で一人ひとりの希望に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事前の嚙下体操や歌・手踊り・レクリエーション等張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう工夫し、花見や園芸など実施し楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の散歩や買い物、ドライブなど入居者の希望に添って、ホームの外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の行動パターンを把握し、様子を見守り声かけなど工夫し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。近隣住民を誕生会などに招待し、利用者を覚えてもらい、理解や協力体制を築いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防地域住民と協力し避難訓練を実施している。災害に備え、カセットコンロや缶詰などの食料品も準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、記録している。栄養士が献立を作成し、毎月の体重測定等栄養バランスに配慮している。刻みやミキサー食など状態や力に応じた支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓や居室の窓等採光も工夫され、ホールの広いテーブルを中心に、和室や明るい色のソファが配置され、家庭的な雰囲気がある。花や壁飾りで季節感をもたせる工夫もしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、入居者の思い出の写真や、かわいがっているぬいぐるみ、使い慣れた目覚まし時計や毛布など持ち込み、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。